

いい街ちばフリーマーケットはフリマの「老舗」

千葉銀座通りで「第1回 いい街ちばフリーマーケット」が開催されたのは1994年。県内のフリマの先駆けとなりました。月1回の開催を重ねて20年。雨で中止になった回もあります。が、2014年3月は第240回、これはちょっと自慢してもいい歴史ですよ。

規模も内容も指折り

商店街の車道を歩行者天国にして、毎回100以上の「お店」が並びます。手作り品や自宅の不用品を持参する方々だけでなく、骨董商や古着屋さんも出店。売る人も売られる品も多種多彩です。企業や団体がプロモーションとして出店する場合もあり、福祉関係やボランティアの出店も少なくありません。

お楽しみがいっぱい

歩行者天国の千葉銀座通りは、2つの交差点が「パフォーマンス広場」になります。毎月のフリマの日は、同時に「ちば大道芸の日」、そして「和太鼓インザストリート」の日でもあるのです。さらに、時には大学のダンスサークルが登場したり、地元千葉のプロチームによるスポーツイベントも開催されます。毎回「今日は何？」とワクワクさせるのが、いい街ちばフリーマーケットの特色。買物以外にもお楽しみがいっぱいなので、小さいお子さん連れのファミリーも、シルバー世代も、繰り返しフリマに来て下さるのです。



フリマの極意

フリマってなあに

フリマのフリーは「蚤（Flea）」のこと。ノミには「古い、みすばらしい」といった意味合いがあり、パリ郊外で開かれる骨董市が「蚤の市」(marche aux puces)と呼ばれたのが、今日のフリマの語源です。しかし、誰もが参加できるという意味では、たしかにFree（自由）なマーケットと呼んでもよさそうですね。実際に、和製英語でFree Market と表記している例もあるようです。

フリマの楽しみ方

①ながめる

どんな物が売られているか見て回るだけでもフリマは楽しいものです。買う予定のない方もお出かけください。こんな値段で?! とびっくりしたり、こんなの売れるの?! と感心したり、飽きることがありません。

②買う

売り手と買い手のコミュニケーションがフリマの醍醐味。時には思い切って値段の交渉をしてみましょう。気の弱い方は、夕方フリマの終わりがける時間に行けば値下がりしているかも。ただし売り切れる可能性もあるので、この判断は微妙。

③売る

「断・捨・離」という言葉が流行りました。でも整理して必要がないと思っても、捨てるというのは心が痛みます。そんな時こそフリマに出して、使ってくれる人を探しましょう。あなたにとって不要でも、欲しい人にはウレシイ品物かもしれません。

フリマの出店 基本のキ

敷き物

品物を並べるシートや箱、ハンガースタンド、自分の坐る椅子などは持参しましょう。

ディスプレイ

欲しいと思わせる並べ方や値段のつけ方を工夫しましょう。

おつり

こまかいお金は必ず必要です。お忘れなく。

ふくろ

買って頂いた物を入れるためにレジ袋やデパートの空き袋を用意しましょう。

留守番

初心者の方はお友達と一緒にの出店をお勧めします。一人だと食事にもいけませんからね。

観察

ほかのお店の品ぞろえや値段を見て回りましょう。いいアイデアは頂きます。

気候対策

暑さ・寒さの対策は大事です。夏なら日よけの帽子は必須。冬はビル風の吹きぬけるところも多いので、防寒は万全に。

ご近所

となり同士に並んだのも何かのご縁。仲よくしてフリマの一日を気持ちよく。

後を濁さず

ゴミのマナーはフリマの基本。空き袋やゴミも残さず持ち帰りましょう。

